ひょうご人権ジャーナル

ひろげよう こころのネットワーク

きずな

KIZUNA

2014
平成26年
7

特集テーマ

多文化共生

多様性を楽しむ

2 グラフで見る外国人の人権

3 「一方向から双方向の『多文化共生』へ」
竹沢泰子さん（京都大学 人文科学研究所 教授）

4 「地域の外国人を日本語教室で支援」
ボランティアグループ柏原日本語教室「こんにちは」（丹波市）

5 「異文化交流で新たな視点を」
三木市国際交流協会（三木市）

6 「地域で活躍する国際交流員」
アカ・リオネルさん（国際交流員）

7 「想像したことありますか？　性別にも多様性」
飯田亮瑠さん（セクシュアルヘルスアドバイザー）

8 情報ぷらざ

兵庫県マスコット はばタン

兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会

特集テーマ

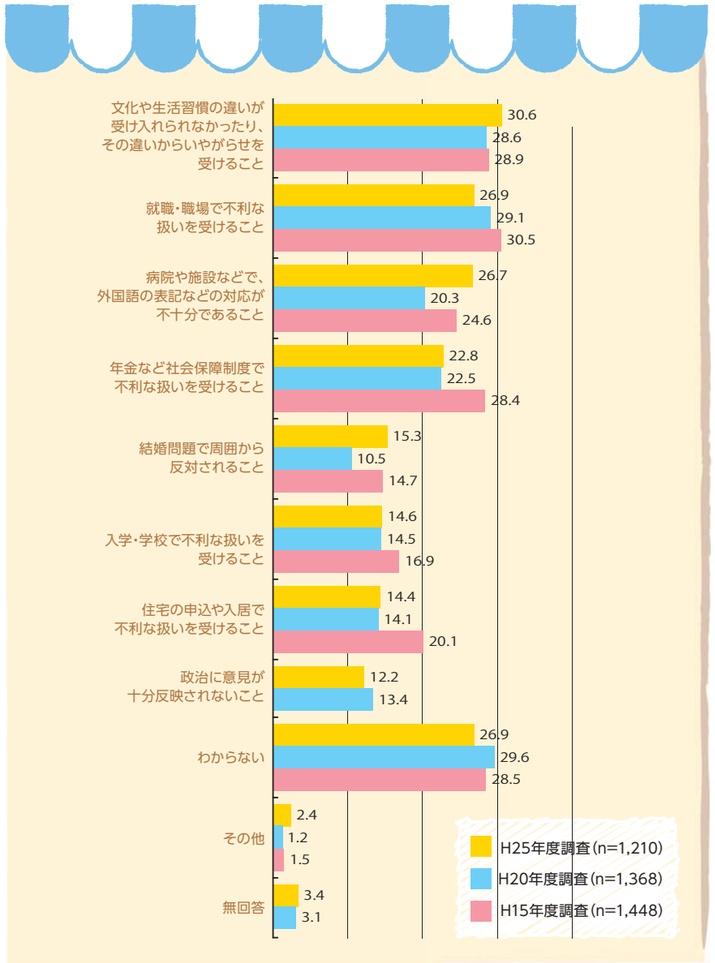
グラフで見る外国人の人権

県内には、多くの外国人県民が生活しています。言語や習慣、文化の違いを受け入れ、互いの多様性を認め合う「多文化共生社会」の実現に向けてともに生きる環境づくりが進められています。すべての県民の人権が尊重され、誰もが地域社会に参画し、ともに幸せになる社会について考えてみましょう。

平成25年度　人権に関する県民意識調査の結果より

日本に居住している外国人に関することで、人権において、特に問題があると思うこと。

（○は3つまで）



県民の皆さんは日本に居住している外国人の人権について、どのような意識をもっているのでしょうか。

県と協会が実施した県民意識調査の結果では、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」が30.6%で最も高く、次いで「就職、職場で不利な扱いを受けること」(26.9%)、「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」(26.7%)、「年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること」(22.8%)の順となっています。

一方向から双方向の「多文化共生」へ

京都大学
人文科学研究所
教授
竹沢 泰子さん

政府は、日本の労働力不足を補うため、外国人労働者の受け入れを拡大する方針を打ち出しました。こうした議論では往々にして、外国からの移住者を『労働力』の観点でのみとらえる傾向にあり、同じ日本社会にともに生きる地域住民としてみる視点が薄いように思われます。人口の高齢化と少子化が深刻化する日本において、今後ますます外国人労働者やその家族の数は増えていくでしょう。そのプラス面をより活かすためには、さらに発展した「多文化共生」の考え方や実践が求められます。

「多文化共生」とは

「多文化共生」という言葉は、1990年代前半、神奈川県の一部の自治体関係者の間で使われ始めましたが、今日のように日本全国に定着したのは、阪神・淡路大震災以降のことです。震災後、国籍や文化を越えた助け合いが各地で起こり、兵庫県から全国に広がったのです。「多文化共生」には、さまざまな文化背景をもつ人々がともに生きる、つまり少数派集団の人々に日本社会への同化を求めるのではなく、互いの文化やそれにもとづくアイデンティティ(帰属意識)を尊重するという意味が込められています。

一方的な支援ではない共生のあり方

私が関わっている日本学術会議の「多文化共生分科会」で交わされた最近の議論の一つをご紹介します。それは、従来の固定した、「日本人」対「外国人」の主＝客といった関係ではなく、対等な関係で互いに「学び合う」ことが重要だというものです。「困っている外国人」を日本人が支援するばかりでは、本当に必要なサービスが提供されず、日本人側のお仕着せになる場合があります。外国人の自立も促されず、日本人優位の関係は変わりません。外国につながりをもつ人々の存在やものの見方によって、多数派である日本人側の考え方も変わっていかなければならないという議論です。

それを実現するためには、外国につながりをもつ人たちが、言語や文化という資源や自らの経験を活かしながら、活躍できる場がもっと提供されることが必要です。民間団体のスタッフはもちろんのこと、公務員や教員としても雇用が広がることを日本学術会議の分科会では提唱しています。さまざまな文化背景をもつ人々が、対等な関係で発言できる仕事や活動に従事することによって、多数派の日本人の視点も変わり、グローバル時代にふさわしい日本社会に変わっていくことが望まれます。

プロフィール

専門は文化人類学。日本学術会議「多文化共生分科会」副委員長、兵庫県外国人県民共生会議議長などを歴任。著書に、『日系アメリカ人のエスニシティ～強制収容と補償運動による変遷』(東京大学出版会、澁澤賞受賞)、『人種概念の普遍性を問う』(編著、人文書院)、『移民研究と多文化共生』(共編著、御茶の水書房)など。

地域の外国人を日本語教室で支援

ボランティアグループ
柏原日本語教室「こんにちは」
代表
時里 孝子さん

1998(平成10)年、兵庫県国際交流協会が主催する「日本語ボランティア養成講座」に参加した数人のボランティアが集まり、丹波市で日本語教室「こんにちは」がスタートしました。教室は今年で17年目を迎え、息の長い活動になっています。

＜継続する語学支援＞

日本語教室は、代表の時里さんの自宅を開放して、月火水土の週4日行われています。月曜日は子ども向けのクラス、土曜日は習熟度に応じた3クラスを設定。ボランティアスタッフ6名で運営しています。

丹波市には現在、人口の約1%にあたる650人ほどの外国人が暮らしています。文化も習慣も違う国で暮らすことは、誰にとっても簡単なことではありません。社会生活に必要な日本語の力が不足している人も多いといいます。この教室では、地域の企業で働く人や研究生、結婚で日本に移り住んだ人などが学んでいます。

一時は70人以上が在籍していましたが、現在の在籍数は25人。在籍数は景気を反映するのだそうです。参加者の目的は、日常会話の習得や日本語検定合格など、それぞれ異なりますが、ホワイトボードやテキストを使いながら、楽しい雰囲気の中で学習しています。ベトナム出身のラオさんは、「住まいの近くには友だちがいなくてさみしいですが、ここに来れば、みんなと話せるので楽しいです。日本語をたくさん覚えて、日本人の友だちも作りたい」と丁寧な日本語で話してくれました。

「17年前は、自分たちの周りに外国人が住んでいるという意識もありませんでした」と時里さんは当時を振り返ります。教室を始めると、希望者が集まりだして、やめられなくなったそうです。参加者との出会いを通じて、互いにその国の文化や習慣を知り、自分たちの視野を広げることの楽しさを知ったことが、続けてこられた理由だと話します。

＜外国人が集える居場所づくり＞

クラスが終わるとお茶やお菓子が差し入れられて、雑談タイムが始まります。故郷のことや互いの近況などのほかに、「お祝いの作法」など日本の風習や生活の悩みが相談されることもあります。参加者の多くは言葉を身につけるだけでなく、日本の風習や文化も吸収したいと考えています。溝掃除など地域活動へ意欲的に参加し、地域の方とうまく交流している人もいます。

「外国人には『居場所』が必要。日本語教室が、語学支援だけでなく、外国人が安心して集える場所になれば」と時里さん。「受講者の中から、外国人を支援するリーダーを育成し、これからも活動を長く続けたい」と抱負を語ります。

笑い声が絶えない楽しい日本語教室の学習風景。

土曜のクラスに集まった参加者とボランティアスタッフ。後列最左が時里代表。

柏原日本語教室「こんにちは」

月火水土に教室を開催。月曜は子どもクラス。土曜日は習熟度に応じて、3クラスを実施します。時間は19時30分～21時00分。
月謝500円。

丹波市柏原町柏原2792
TEL.0795-72-3250

異文化交流で新たな視点を

三木市国際交流協会(MIA)

三木市国際交流協会(MIA)は、姉妹都市との交流、外国人の受け入れ、国際理解の普及啓発、国際交流についての調査・資料作成を柱として、国際交流の輪を広めるために活動しています。

＜ことばの教室で国際交流＞

MIAでは、英語、韓国語、中国語、スペイン語などで、14の「ことばの教室」を開設しています。受講生は、言語の習得だけでなく、交流を通じて、異文化に触れることを楽しんでいます。

外国人向けには「日本語クラス」を設定。年会費は2,000円で、日本語ボランティアが外国人と会話や読み書きの学習を1対1で行います。

＜国際交流のための多様な活動＞

市外からも多くの参加者が集う「COOL MIKI」。毎年2月に開催され、外国人や日本人プロによる落語、外国人による日本語スピーチなどが行われます。国籍を超えた一体感が持てる人気のイベントです。他にも国際料理教室など食を通じた交流の機会も提供します。

料理教室の講師を務めたパタクチェトリ・ガンディップクマルさんは、「日本人はみんな親切」と感謝の気持ちを表しながら、日本に来たときは言葉が分からず、買い物や通院、防災などの安全面で不安を感じていたとその頃を振り返ります。

＜外国人支援のための研修を企画＞

MIAでは外国人が抱える不安とその解消をめざして、昨年度はボランティア対象の、「日本語の教え方教室」を11回実施。「言葉も分からずに日本に来られた外国人の心境に寄り添って支援したい」と参加者は気持ちを新たにしました。

今年は、災害時の情報提供の在り方をテーマに研修を行います。阪神・淡路大震災では多くの外国人も被災しました。防災に関する基礎知識が少なく、言葉も分からない外国人は、災害時に「災害」と「情報」の二重の弱者となります。災害時に使われる日本語は、日本人が思っている以上に難しく専門用語がよく使われています。そこで、MIAでは、※「やさしい日本語」を用いて、防災の知識や災害時に適切な情報を提供する方法について研修を実施し理解を深めます。

また、外国人にとっては通院も敷居が高いもの。病気になっても、自分の症状をうまく伝えられないので、我慢して悪化するケースも多いそうです。このような状況に対応するため、医療通訳についても研修したいと考えています。

国籍を問わず、みんなが安心して暮らせる社会づくりをめざして、活動していきます。

※普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のこと。詳しくは、「やさしい日本語」のホームページをご覧ください。

三木城主別所長治公を偲ぶ『別所公春祭り』での一枚。地域の行事にも積極的に参加し、日本の文化や歴史に触れる機会を大切にしています。

日本語クラスでは俳句教室を実施。学習した日本語で俳句を作りました。初めての筆とは思えない出来栄えで、参加者も大満足。

事務局長 河越恭子さんからのメッセージ

日本語ボランティアのお誘いをすると、英語ができないのでと返答される方が多いですが、日本語教室では、基本、日本語で外国人の日本語学習を支援します。指導のための講習も行っていますので、気軽に参加して、異文化交流を楽しんでみてください。新しいつながりができて、視野もぐっと広がることでしょう。

三木市国際交流協会 (Miki International Association)

1996(平成8)年に設立。個人約400名、団体法人約40団体が会員登録しています。約30人の日本語ボランティアで活動しています。日本語ボランティアやホストファミリーを募集中。詳しい情報はMIAまでお問い合わせください。

三木市国際交流協会　検索

子ども多文化共生教育の推進拠点 子ども多文化共生センター

「子ども多文化共生センター」は、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒が互いの「違い」を「違い」として認め合い、多様な価値観を受容しながら、共に生きようとする意欲や態度をはぐくむ、子ども多文化共生教育を推進するために活動しています。

〒659-0031 芦屋市新浜町 1-2（県立国際高等学校内）
電話:(0797)35-4537　FAX:(0797)35-4538　電子メール:mc-center@hyogo-c.ed.jp

外国人児童生徒等に関わる教育についての相談はお気軽にお問い合わせください。

- 利用時間：平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00
- 閉 館 日：土・日曜、国民の休日、年末年始 ※臨時休館あり
- 教育相談：電話相談　開館日の9:00～17:00の間
  面接相談　予約制 ※予約があれば通訳をご用意いたします。
  E メール相談　上記アドレスへ。

人権ガイド

＼ お困りの外国人県民にお伝えください！ ／

外国人県民のための相談窓口

外国人の方が安心して過ごせるよう、暮らしの中で困ったことや知りたいことのアドバイスや情報の提供を行うため、相談員が5言語（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・やさしい日本語）による生活相談を行っています。

(公財)兵庫県国際交流協会
外国人県民インフォメーションセンター
☎078-382-2052
生活相談 月曜～金曜 9:00～17:00　法律相談 月曜 13:00～15:00（面談のみ要予約）

地域で活躍する国際交流員

国際交流員（CIR）
アカ・リオネルさん

プロフィール
1988（昭和63）年生まれ。
フランス西部ナント市出身。兵庫県での国際交流員としての活動は、今年で2年目。

国際交流員は、「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」により派遣され、地域での国際交流を進めるために活動しています。

Q日本に興味を持ったきっかけは。

16歳の時、ある一冊の漫画を読んだことから囲碁に興味を持ち、日本人講師が指導した囲碁セミナーに参加したことがきっかけです。しかし、当時私は、日本語が全く分かりませんでした。彼と日本語で直接話せるようになろうと思い、その日から猛勉強しました。彼からは、日本人の考え方など多くの刺激を受けました。

Q国際交流員の主な活動は。

講演や通訳、翻訳、外国人県民を含めた地域住民への各種サービスなどを行っています。講演は、兵庫県内の学校や公民館などで、外国の文化や生活など、様々なテーマについて日本語で話をします。現在オーストラリア、韓国、中国、フランス、アメリカ出身の5人が活動しています。

Qなぜ、国際交流員に。

以前から、文化の交流に興味があり、フランスでは「日仏青少年協会」を立ち上げ、日本とフランスの文化交流を行っていました。7年前に私の先輩（前任の国際交流員：ジェレミー氏）が「兵庫県の国際交流員になる」と私に教えてくれました。その時初めて国際交流員の存在を知り、交流員の仕事の詳細を聞きました。そしてすぐに私は「君の任期が終わったら、次は私の番だよ」と彼に伝え、現実に今、その通りになっています。

Q活動を通して思うことは。

日本の人口の内、外国人が占める割合は約1.5％程度で、決して多いとは言えません。だから、講演などで皆さんと触れ合う機会をもっと増やし「外国人と日本人が、考え方や文化的背景が異なっていても、根本的には私たちは同じ人間であり、理解し合える存在である」という事を伝えていきたいです。

Q「多文化共生」とは。

フランスには、複雑で長い歴史があります。また、移民人口が多いこともあり、いろんな国にルーツを持つ人の割合が高いです。だから、多文化であることが当たり前で、多文化共生を取り立てて話すことは少なく、日本で考えている外国人という捉え方もあまりしません。私にとって、多文化共生とは、固定的な考え方を捨てて違いを認め合うことで進めていけるものだと思います。

Q読者へメッセージを。

外国人に対して、自分たちから壁を作っているように感じます。外国人を特別扱いせず、一人の人として接することが大切だと思います。

最後に私が大切にしているこの言葉をみなさんに贈ります。

「もしあなたが私の水を飲みたければ、まずあなたは、あなたが持つ茶碗を空にしなさい」

小学校での講演の様子。講演後に、『フランスに興味を持った』『行ってみたい』などの感想を聞くことが、やりがいにつながるとアカさん

問い合わせ

国際交流員の講師派遣を希望される方は、県国際交流課までお問い合わせください。
電話078-362-3026

JETプログラムは、

外務省、文部科学省、総務省が地域自治体と協力して、諸外国の青年を日本に招き、外国語教育の充実と地域レベルでの国際交流の進展を目的としています。国際交流員（CIR）の他には、学校で語学指導をする外国語指導助手（ALT）、スポーツを通じた交流活動を行うスポーツ国際交流員（SEA）があります。

JETプログラム
（Japan Exchange and Teaching Programme）

国際交流員（CIR） | 外国語指導助手（ALT） | スポーツ国際交流員（SEA）

想像したことありますか？性別にも多様性

きずなトピック

セクシュアルヘルスアドバイザー
飯田亮瑠（いいだ あきる）さん

想像したことありますか？電車で隣に座っている男性会社員が、女の子の体で生まれてきたかもしれない。コンビニのアルバイトのお姉さんが、男の子の体で生まれてきたかもしれない。自分の姉が女の人に恋しているかもしれない。自分の息子が彼氏を家に連れてくるかもしれない。元気に産まれた赤ちゃんが男女両方の特徴をもっていて、親としてどちらで育てるか選べと迫られるかもしれない。「一般的な男性・女性」とは少し違う性をもつ人たちは性的マイノリティーとか※LGBTと呼ばれます。20人に1人程度はいると言われます。

性別は「男」「女」の2つ、違いは体。これを疑ったことのある人は少ないかもしれません。でも実は、体だけでなく心にも性別はあるのです。社会生活や表現、恋愛対象など、性別の要素は多様なのです。しかも、「男」「女」は二分できるものではなく、男と女の間はグラデーションのように広がっているのです。揺らいだり、変化したりすることもあるのです。

私は性的マイノリティーの1人です。私の心の性別は幼少の頃から男の子ですが、女の子の体で産まれました。私のように心と体の性別が一致しない人は「性同一性障害」「トランスジェンダー」などと呼ばれます。成長とともに女の子らしく変化する体がとても不快でした。トイレ、服装、体育、健康診断、就職活動、恋愛…。日常生活の様々な場面で、〝男はこう〟〝女はこう〟と体の性別に基づいた役割が求められ、その度に私の心の性別は無視されてきました。得体のしれない息苦しさを感じながらも、私にはそれを人に説明できる知識もなく、個性だと自分に言い聞かせて我慢の日々を送っていました。

大学生の頃、初めて「性同一性障害」の存在を知り、とにかく嬉しかったのを覚えています。自分の正体がわかり、同じ悩みを持つ人もいると分かったからです。それでも私は体の性別に沿って生きることはできませんでした。自分を生きるために、治療を始めました。現在は男性として社会生活を送れています。多くの人にとって、体の性別に違和感なんて想像できないと思います。私は、私の言葉や心の声に真剣に耳を傾け、理解しようと努めてくれた人たちに囲まれていました。どんな人でも、互いの在り方を理解し肯定しあえたら幸せに近づけるんじゃないかな、そんな多様性を目指して、私はメッセージを届けています。

プロフィール

1981（昭和56）年愛知県生まれ。性同一性障害当事者。心の性別は男、産まれたときの身体の性別は女。精神療法、ホルモン療法、乳房切除手術、子宮卵巣摘出手術、戸籍上の名前と性別の変更を経て、現在は男性として社会生活を送る。体験談もまじえてセクシュアリティーや多様性に関する講演を行ったり、中学校や高校に暴力防止のプログラムを届けたりしている。

※Lesbian（レズビアン）（女性に惹かれる女性）、Gay（ゲイ）（男性に惹かれる男性）、Bisexual（バイ・セクシュアル）（両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー）（性同一性障害）の頭文字を取った総称。

映画紹介 そして父になる

都心の高級マンションで暮らすエリートサラリーマンの野々宮。6年間育てた一人息子が他人の子どもだったと産院から伝えられます。実の息子は群馬で小さな電気店を経営する庶民的でにぎやかな家庭で元気に育っていました。

産みの子か育ての子か、一組の夫婦の葛藤が始まります。子どもの容姿だけでなく、ちょっとしたしぐさが似ているとか、一緒に暮らした6年間の重みとかに始まって、両家の家庭環境の落差、育て方の違いも問題になります。

「前例では、100％ご両親は交換という選択肢を選びます」「どうせだったら、両方ともひきとっちゃえ」など様々な助言も聞こえてくる中、両家の交流、子どもを「交換」しての生活の様子などが描かれます。子ども二人をしっかり見つめ、諸々気づかされることで、野々宮はやっと「父になる」ために成長していきます。

7月17日宝塚・ソリオホール、19日小野市民会館、8月3日播磨町中央公民館などにて上映会があります。

©2013「そして父になる」製作委員会

©2013「そして父になる」製作委員会

監督：是枝裕和
出演：福山雅治、尾野真千子、真木よう子、リリー・フランキー

上映会のお問い合わせは、
078-331-6100
（兵庫県映画センター）まで。

「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2014 inかさい」を開催！

入場無料

8月は「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間です。兵庫県では、市町と一体となって啓発活動を行っています。楽しい催しが盛りだくさん。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

日　時 8月23日(土)
10:00～15:40

場　所 加西市民会館
加西市北条町古坂1丁目1番地 TEL.0790-43-0160

アクセス 北条鉄道「北条町」駅から徒歩10分、中国自動車道加西ICより車で5分

出演者

- **人権講演会／弁護士 菊地 幸夫**（日本テレビ「行列のできる法律相談所」でおなじみの弁護士）
- **こころあったかステージ／ベイビー・ブー**（阪神・淡路大震災後、被災地を勇気づけたボーカルグループ）
- **開会宣言／伊東浩司**（ひょうご人権大使、陸上100mの現日本記録保持者）

■それいけ！アンパンマン ショー
■ヒューマンシネマ
「千の風になって」・人権啓発ビデオ「ヒーロー」ほか
■これ以外にも、パネル展、ふれあいステージ、販売コーナーなど

（問い合わせ先）**公益財団法人兵庫県人権啓発協会**
神戸市中央区山本通4丁目22－15　県立のじぎく会館内　TEL.078-242-5355

イベントガイド

	日　時	場　所	内　容	問い合わせ
宝塚市 平和映画会	7月16日(水) ①10:30～12:10 ②14:00～15:40	宝塚市立文化施設 ソリオホール ※阪急「宝塚」駅下車すぐ	映画上映「陸に上った軍艦」 ※無料、申し込み不要、字幕つき いずれも先着300名	宝塚市総務部 人権男女共同参画課 TEL 0797-77-9100
姫路市 人権学習地域講座	第4回 7月3日(木) 14:00～16:00	姫路市花の北市民広場大ホール ※JR播但線「野里」駅より徒歩1分	講演「発達障害児の困り感とそれに寄り添う共感的理解に基づく支援」 太田篤志さん（姫路獨協大学医療保健学部客員教授）	姫路市人権啓発センター TEL 079-282-9801 ※無料、申し込み不要、手話通訳、託児あり
	第5回 7月30日(水) 14:00～16:00	姫路市立夢前公民館 ※JR姫路駅より神姫バスに乗車、前之庄行きまたは山之内行きで「前之庄」下車徒歩5分	講演「ライフスタイルを考える－男と女の関係を探る」 源淳子さん（関西大学非常勤講師）	

インターネットで「人権文化をすすめる県民運動」の模様を配信中！ 人権文化をすすめる　動画　検索

ハーフタイム half time

中近東で3年間生活したことがあります。現地の言葉や習慣が分からず、生活に不便を感じていたことを思い出します。今、日本で居住されている外国人の多くも同じような思いをされておられるのだろうと想像します。

当時を振り返ると、勝手がわからずに戸惑っている私に、近寄ってきて微笑む人や身振り手振りで何かを伝えようとする人など、多くの人が困っている「外国人」に関わろうとしてくれました。そのような温かい行動のおかげで、海外での生活を無事に終えることができたのだと思います。いまだ、十分な恩送りはできていませんが、共生社会実現のため、自分にできることを探していきたいと思います。（小池）

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

（公財）兵庫県人権啓発協会　〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355　FAX 078(242)5360　info@hyogo-jinken.or.jp
兵庫県人権啓発協会　検索

2014(平成26)年7月発行